

良いはきものとは、はき心地と共に体の安定にも役立つものでなくてはならない。不安定なはきものは、はき心地も悪く体の平衡をとり難くすることが当然考えられるので、はきもののヒールの高さや形の相違が、人の停止時の平衡感覚に如何に影響するものかを観察した。

被験者は、五官機能に障害のない健康な女子学生60名で行い、実験に用いたはきものは、ヒール高2.0cm, 5.0cmのパンプス、及び8.0cmのピンヒールである。人体の平衡維持状態の記録には平衡機能測定器(三栄測器)を用いた。被験者は、3個の圧力変換器よりなる1辺が660mmの三角形の台の上に開眼直立し、3分間における平衡維持状態を記録観察した。

1) 対照(素足)の平衡状態は、個人差が非常に大きく、X軸、Y軸の交点に近く、平均的なゆれを示した者は、22.5%(60例中)であった。2) はきものによる人体のゆれは、着靴直後、脱靴直後共に大きく出現し、時間経過と共に安定することが認められた。この安定に要する時間は、ヒールの高いはきものをはいた経験の長い者ほど短時間であった。3) ヒールの高低による平衡維持状態は、ヒールの高い場合には着靴直後のゆれが大きく、しかも、そのゆれは、X、Y軸の交点から離れ大きな広がりを示し、また、安定するまでに長時間を要した。4) ピンヒールでは、他のパンプスよりもゆれが大きい。これは踵のないことが足部の安定を欠くためと考える。5) 衣服圧(ウェストベルト)も、平衡状態に影響を与え、圧が高い場合にはゆれも大きく、安定到達時間も延長する。特に、ピンヒールの場合にその影響は著しい。